

# 熊本地域乗合バス事業 共同経営計画〈第1版〉 の概要

令和3年（2021年）3月  
九州産交バス(株)、産交バス(株)、熊本電気鉄道(株)、  
熊本バス(株)、熊本都市バス(株)

## 申請者

- |                |                |
|----------------|----------------|
| (1) 九州産交バス株式会社 | (4) 熊本バス株式会社   |
| (2) 産交バス株式会社   | (5) 熊本都市バス株式会社 |
| (3) 熊本電気鉄道株式会社 |                |

## 計画区域・対象路線

複数のバス事業者が重複して運行する代表4区間+効率化で生じた余剰の充当天（熊本駅周辺の開発の対応） ※右図参照

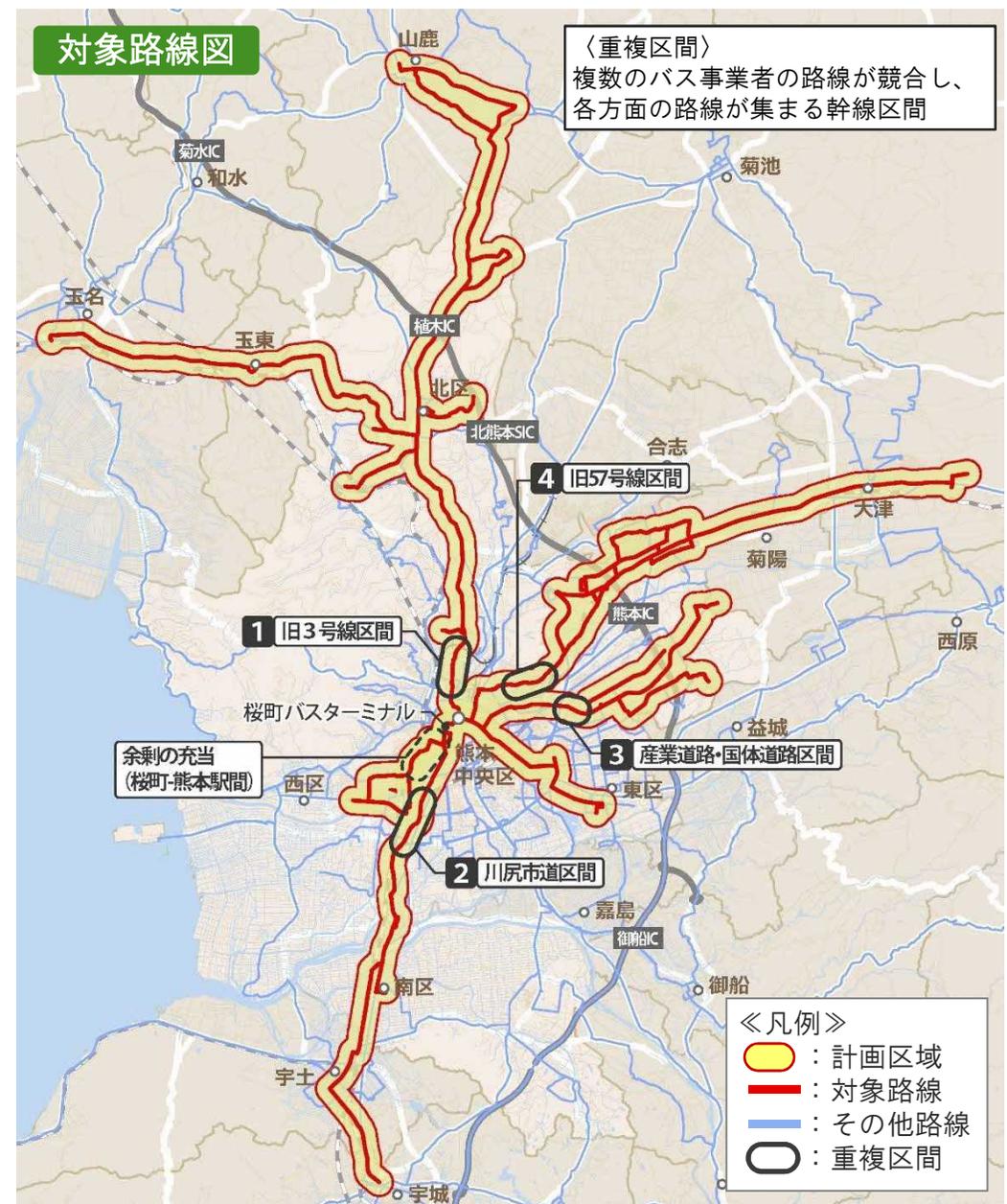
## 共同経営の概要

- ①旧3号線方面の最適化〈植木・山鹿方面〉  
重複路線の見直し、待ち時間の平準化、系統移譲に伴う定期券の継続措置、熊本駅方面の路線延伸（余剰の充当天）
- ②川尻市道方面の最適化〈川尻・松橋方面〉  
重複路線の見直し、待ち時間の平準化
- ③産業道路・国体道路方面の最適化〈長嶺方面〉  
重複路線の見直し、待ち時間の平準化、系統移譲に伴う定期券の継続措置
- ④旧57号線方面の最適化〈楠・大津方面〉  
重複路線の見直し、待ち時間の平準化、2社共通の乗継割引、熊本駅方面、武蔵ヶ丘・光の森方面の路線延伸（余剰の充当天）

## 共同経営の目標

- ①収益性・効率性の向上  
重複区間の効率化等により、収益性は約31百万円の改善、サービス維持に必要な人員5.6人/日・車両4.7台/日の軽減
- ②サービス提供維持の目標  
利用者利便の水準を維持しつつ、対象55系統のサービス維持

**実施期間** 令和3年4月1日～令和6年3月31日までの3年間



# 1 共同経営計画第1版の概要

## 事業全体の概要

収支赤字 +約31百万円 改善 (3年で+約91百万円 の改善効果)、  
サービス維持に必要な運転士 +5.6人/日・車両 +4.7台/日 改善

① 旧3号線

② 川尻市道

④ 旧57号線

③ 産業道路・国体道路

収支 -約16百万円 悪化      人員/車両 -0.9人/0.6台 悪化

**取組内容**

- 産交バス
  - ※現状維持
- 九州産交バス
  - 重複路線の見直し
  - 減便、区間短縮
  - 待ち時間の平準化
  - だんご状態・間隔が長いダイヤの調整
- 熊本都市バス
  - 重複路線の見直し
  - 系統の移譲、一部系統の廃止
- 2社共通
  - 系統移譲に伴う定期券の継続措置

現状	実施後
1 系統 平日 14便 土曜 6便 日祝 6便	1 系統 平日 ±0 土曜 ±0 日祝 ±0
15 系統 平日 176便 土曜 150便 日祝 122便	20 系統 平日 +48便 土曜 +44便 日祝 +36便
3 系統 平日 55便 土曜 50便 日祝 39便	○ 系統の移譲 (九州産交バスへ) ○ 系統の廃止 (京町本丁)

余剰の充当 熊本駅方面の延伸

収支 +約2百万円 改善      人員/車両 +0.8人/0.8台 改善

**取組内容**

- 九州産交バス
  - 廃止系統の代替
  - 廃止系統で輸送人員の多い早朝便を一部増便
  - 待ち時間の平準化
  - だんご状態・間隔が長いダイヤの調整
- 熊本バス
  - 重複路線の見直し
  - 系統の廃止

現状	実施後
12 系統 平日 90便 土曜 83便 日祝 78便	12 系統 平日 +1便 土曜 ±0 日祝 ±0
2 系統 平日 6便 土曜 4便 日祝 4便	○ 系統の廃止 (南区役所)

余剰の充当

※効率化で捻出される余剰が軽微のため、自社の労働環境の改善に活用

**取組内容**

- 熊本都市バス
  - 重複路線の見直し
  - 減便、区間短縮
  - 待ち時間の平準化
  - だんご状態・間隔が長いダイヤの調整
- 九州産交バス
  - 重複路線の見直し
  - 系統の移譲、一部系統の廃止
- 2社共通
  - 系統移譲に伴う定期券の継続措置

現状	実施後
1 系統 平日 94便 土曜 60便 日祝 48便	3 系統 平日 +28便 土曜 +22便 日祝 +24便
3 系統 平日 50便 土曜 46便 日祝 41便	○ 系統の移譲 (熊本都市バスへ) ○ 系統の廃止 (戸島駐車場)

余剰の充当 区間①の運行に活用

収支 +約32百万円 改善      人員/車両 +4.4人/3.4台 改善

**取組内容**

- 九州産交バス
  - 重複路線の見直し
  - 減便、増便
  - 待ち時間の平準化
  - だんご状態・間隔が長いダイヤの調整
- 熊本電気鉄道
  - 重複路線の見直し
  - 系統集約、区間短縮、減便、増便
  - 待ち時間の平準化
  - だんご状態・間隔が長いダイヤの調整
- 2社共通
  - 系統移譲に伴う定期券の継続措置

現状	実施後
11 系統 平日 192便 土曜 174便 日祝 132便	12 系統 平日 -4便 土曜 -9便 日祝 ±0
7 系統 平日 40便 土曜 39便 日祝 36便	4 系統 平日 -3便 土曜 -9便 日祝 -10便

余剰の充当 熊本駅方面の延伸

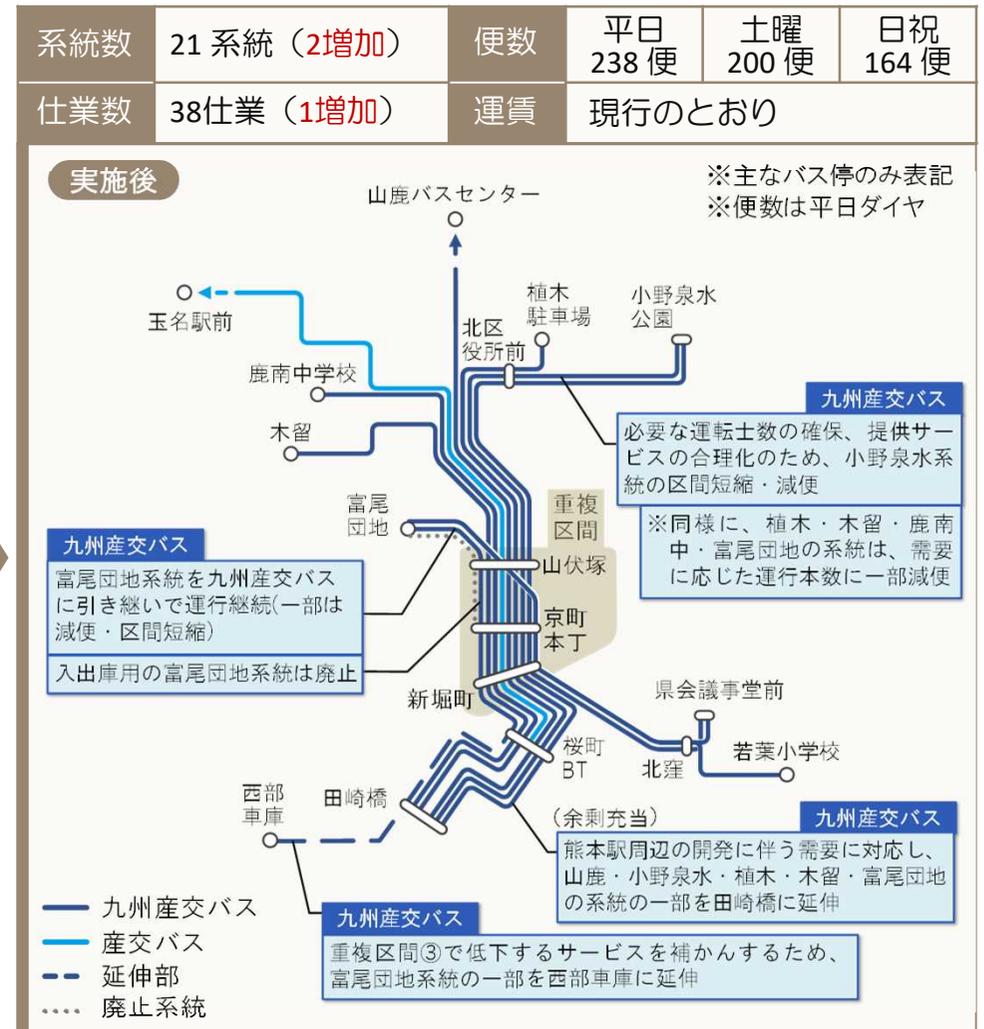
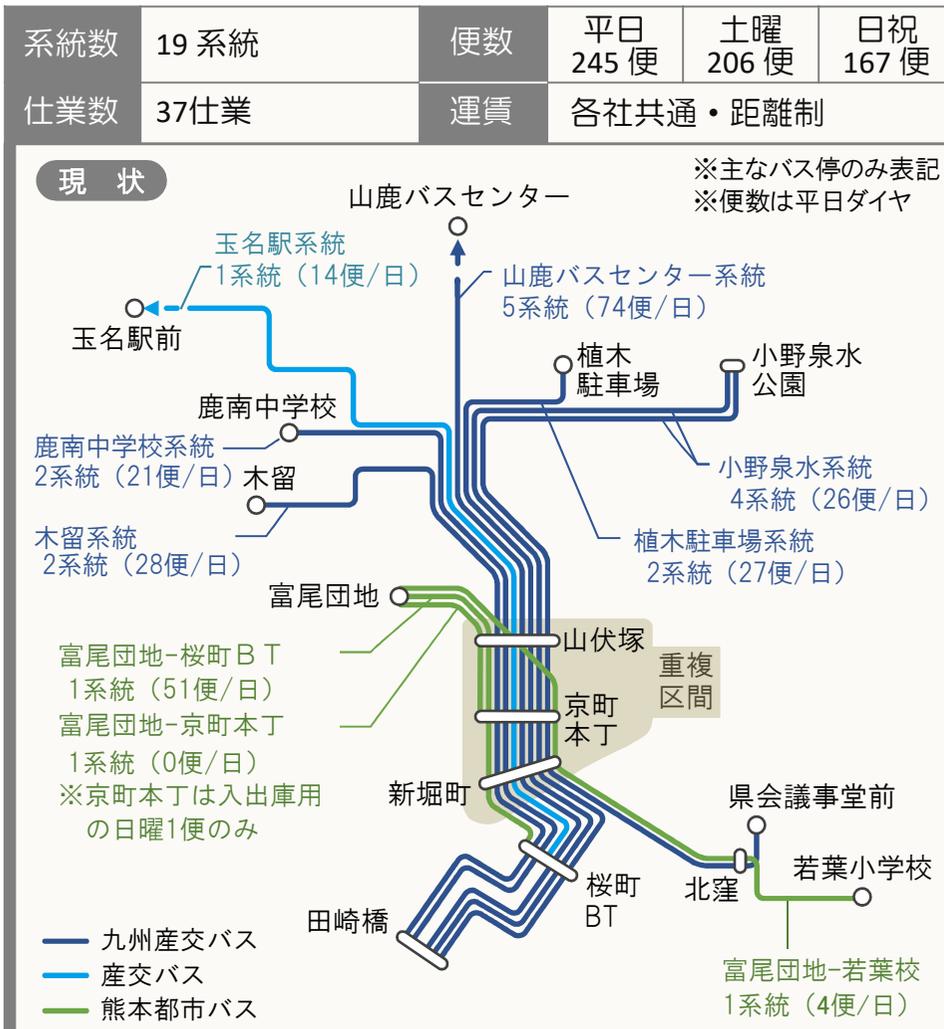
余剰の充当 熊本駅方面の延伸 武蔵ヶ丘、光の森方面延伸

収支 +約13百万円 改善      人員/車両 +1.3人/1.1台 改善

# 2 旧3号線方面の最適化（共同経営の内容）

## 方針 九州産交バスへの運行分担による競合解消・需給バランスに合わせた最適化

- 取組内容**
- ① 運行量の多い九州産交バスに熊本都市バス系統（富尾団地）を移譲し、事業者間の競合を解消（一部系統廃止）
  - ② 需給バランスを踏まえた重複路線の効率化（減便、区間短縮等）、待ち時間の平準化による利便性の維持・向上
  - ③ 効率化で生じた余剰：熊本駅周辺の開発に応じた路線延伸(九州産交バス)、重複区間③の運行に充当(熊本都市バス)

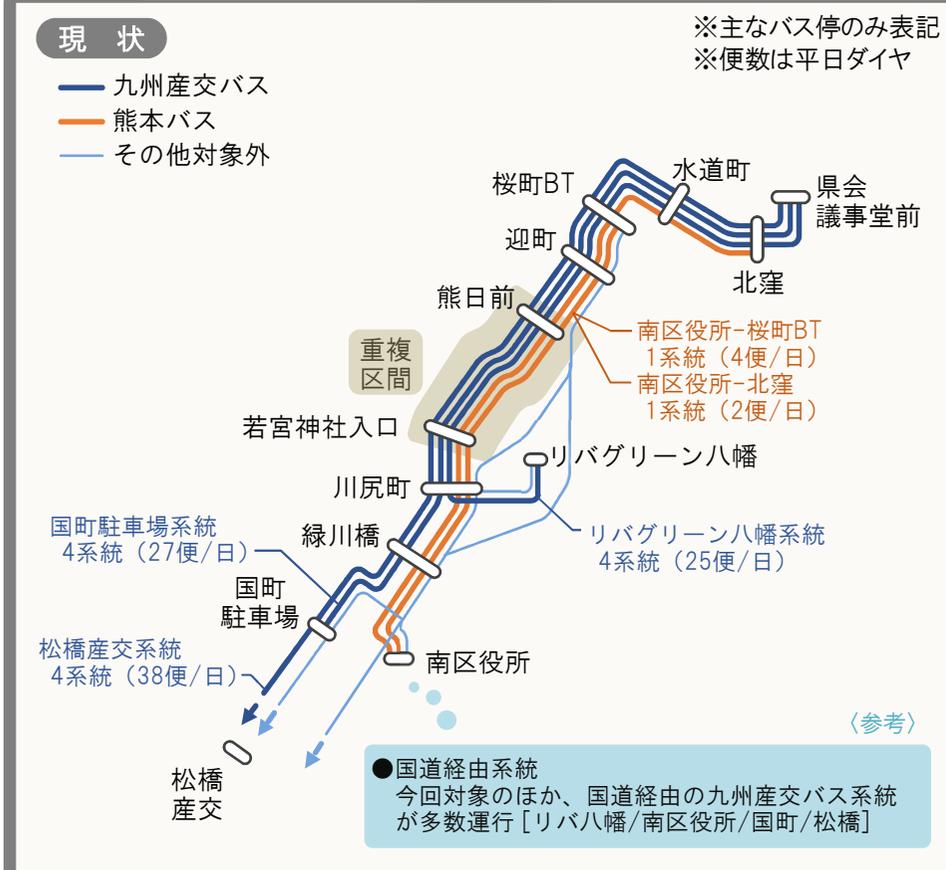


# 3 川尻市道方面の最適化（共同経営の内容）

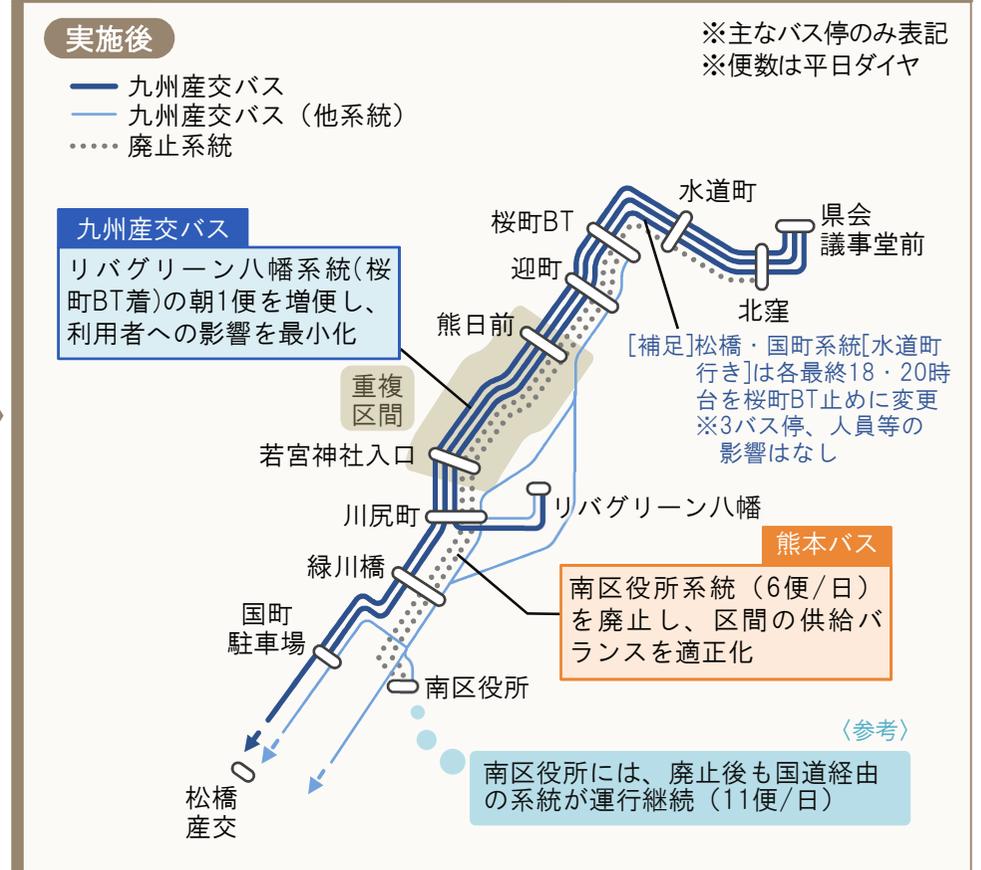
## 方針 九州産交バスへの運行分担による競合解消

- 取組内容**
- ① 運行量の多い九州産交バスに運行分担し、熊本バス系統（南区役所）の廃止により事業者間の競合を解消
  - ② 廃止系統で輸送人員の多い始発1便目は九州産交バスの増便で代替手段を確保（他は全便に近接するダイヤあり）
  - ③ 待ち時間の平準化により利便性を維持・向上（効率化で生じる熊本バスの余剰は軽微のため労働改善に充当）

系統数	14 系統	便数	平日 96 便	土曜 87 便	日祝 82 便
仕業数	14.8仕業	運賃	各社共通・距離制		



系統数	12 系統 (2減少)	便数	平日 91 便	土曜 83 便	日祝 78 便
仕業数	14仕業 (0.8減少)	運賃	現行のとおり		



# 4 産業道路・国体道路方面の最適化（共同経営の内容）

**方針** 熊本都市バスへの運行分担による競合解消・需給バランスに合わせた最適化

- 取組内容**
- ① 運行量の多い熊本都市バスに九州産交バスのトラックターミナル・免許センター系統を移譲し、事業者間の競合を解消（一部系統は廃止）
  - ② 需給バランスを踏まえた重複路線の効率化（減便、区間短縮等）、待ち時間の平準化による利便性の維持・向上
  - ③ 効率化で生じた余剰：重複区間①（旧3号線方面）の運行に充当（九州産交バス）

